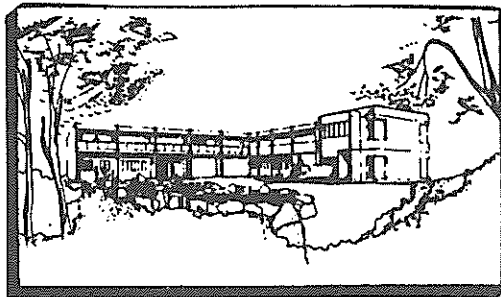
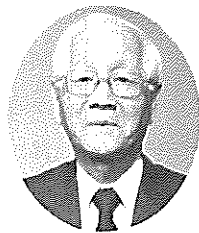


中央聖書学校 〈C・B・C・だより〉



イエス・キリストが最初に弟子たちをお招きになった時、まず彼らに「収穫は多いが、働き手が少ない。」と言われました。(マタイ九・三十五―三十八)。又別の箇所でも「私について来なさい。」とお語りになりました。そしてこの招かれた弟子たちは、全生涯を貫いてキリストの後を踏み、従い、キリストと共に進んでゆきました。

さて、伝道者になるという事は人に言われてなれるものではありません。また人にそうさせられるものでもありません。これはキリストが「私について来なさい。」と言われたお言葉を聞いた人が立ち上がり、キリストに従ってゆき、収穫の実を刈り取る者となるのです。この昔の状況は今も現実に見られるものであります。キリストは町々村々をめぐる歩いて、あらゆる病氣あらゆるわずらいを直されました。マルチン・ルターはこの「病氣」を「クランクハイト (KRANKHEIT)」 「わづらい」を「ゲブレンケン (GEBRE-



収穫の主

校長 弓山 喜代馬

ELIHEN)と訳しております。人間のこの世における悩みのひとつは肉体的病む事です。聖書の福音時代、いかにキリストが多くの人をいやしたかは福音書のどのページを開いてもそれを見ることが出来ます。病は大きな問題です。このキリストの病からの解放といふことについての力の現れは昔も今も変わらず私たちの内になされているのです。キリストはこの「ゲブレンケン」(又はゾイヒェ「SEUCHE」)つまり私たちの内に持つ精神的、肉体的弱さをいやされたのです。イエス様がこのように町々、村々をめぐる歩いて偉大ないやしの業をなしていった原動力は実にこの羊飼いのいない羊のように弱り果てて倒れている群衆への深い同情とあわれみでありました。

マタイ四・十九にありますが「私について来なさい。」というキリストの御言葉は中国語では「ライ・ゲンツォン・ウォー」と読みます。「ライ」は「来たれ」、「ゲンツォン」とは「私の足と

合わせて」であり、特に「ツォン」は「ついて来なさい」という意味を持っております。この言葉をまたギリシャ語で見ますとやはり「来たれ」という意味の語が始めに置かれます。このようにドイツ語、中国語、そしてギリシャ語のどれを見ましてもまず文の頭に「来たれ」とあり、続いて「私に従って、(又は共に)来なさい」となっているのがあります。つまりここに私たちの日本語訳では見る事の出来ない二段階に分かれたキリストの招きがあるのが分かります。まず「ライ」つまりキリストの所へ行くという事であり、人がキリスト者となり、その恵み、救い、いやし、祝福にあずかる招きであります。そして次に「ゲンツォン」が来ます。キリストと足がぶつかり合う程に近く共にあつてついてゆく。これはキリストの弟子となる、伝道者となる、つまりキリストの為の奉仕者になるという事なのであります。しかし「ライ」する人、キリストのもとに集まる者は多くありますが、キリストに「ゲンツォン」する人、すなわちキリストに「くっついて行く」人は以外と少ないのです。私たちはこのような中でキリストについて行く、また奉仕してゆくこの選択を与えて下さった神様に感謝したいと思ひます。

C・B・Cの数字

卒業生総数	三八六名
在校生	
第一学年	三名
第二学年	五名
第三学年	一〇名
第四学年	六名
合 計	二四名
(内男子一六名、女子八名)	
教 授	九名
助教授	二名
講 師	四名

三十年前の卒業生

山脇 久治

先日同期生の佐伯先生から「聖書学校を卒業させて頂き、伝道者として三十四年間奉仕することを許された。」と聞かされ、忘れていた私はこの事実をもう一度深く憶え、私を召し用い給うた御恩寵を心から主に感謝いたしました。無学の只人でありました私が、今日

まで主の業をなすことを許された最大の理由は主のあわれみと御助けでありました。特に聖書学校での三年間の学びと訓練を与えられたことでした。この三年間がなかったら今日あることができなかったでしょう。あの当時は経済的に貧しく食べる物、着る物など思うようにありませんでした。お金もありませんでした。

このような私たちのためにアメリカの聖徒たちが全面的な援助の手をさしのべて下さいました。食事ごとに違いアメリカの兄弟姉妹の愛を憶えたものでした。ドラム缶にいっぱい詰まった衣服は当時の倉庫であつたクレメント師によつて私たち一人一人に分け与えられました。だぶだぶのオーバーや背広を着て私たちは大喜びでした。当時の教師はほとんどが宣教師で弓山先生を中心に見ることができて頂きました。授業の途中で祈りに導かれることもしばしばでした。教室は主の豊かな臨在に包まれたことを憶えています。クレメント師は祈りについてしばしば私たちを教えて下さいました。知識を十分に持つことは大切であります。深い霊的な知識を持つことの方がもっと大切であることをこの時焼き付けて頂きました。

私たちは、こんなによくして頂いた

中央聖書学校学生募集ノ

宣教師のビジョンに燃える若者よ！
駒込山に來りて学び祈らう！
入学資格 (1) 受洗後二年以上を経た忠実な教会員であること。
(2) 高等学校卒業以上の者。

のに全額無料でありました。私に残されている伝道生涯はどれだけかわかりませんが、このめぐみに答えて生きたいと願っています。一人でも多くの人を救いに導くこと、一人でも多くの人が献身するよう助けること献身者(学生たち)のために祈りつづけること、できるかぎり聖書学校の働きを支えること、以上の四点を実践したいと願っています。

恵み溢れる神学校生活

小林章弘

神学校に入学をして、早くも二年余が過ぎ、最高学年として学びと訓練の日々を過ごさせていだいて頂いている。これまでの期間に、主は実に多くの恵みをもつて私を練り鍛え、成長させて下さったと信じているのである。

その恵みを数えてゆくならば、まず朝毎にもたれるチャペルである。共に主を賛美し、祈り、先生方を通してす

ばらしい霊の糧を与えられると共に、自ら説教する経験を通しての実践的訓練をも与えられている。授業に於ては、諸先生方の長年の研鑽と牧会経験を通して、ある時は知的、学問的に深く学び、ある時は体験談等を交えて、実際の指導をもしていただいているのである。このような教室での学びの他に、主目における半年ごとの教会派遣の中で先生方、信徒の方々と交わりや奉仕の場が与えられ、様々の実際の事柄を教えられるのである。

その他、毎週金曜日にもたれる学生伝道会、学生会の諸活動、寮生活等、生活のすべてを通して主は私達に良き訓練を与えて下さっている。この素晴らしい学び舎が背後の祈りとささげ物によつて支えられている事を覚え、心から感謝しつつ、刈り入れの場に出て行き、救霊の業に勤しむ日に備えてゆきたい。

発行・一九八四年七月一日
事務局 〒170 〇三九一八 四九二五
東京都豊島区駒込三二一五 二〇
中央聖書学校
編集者 石原 嘉宣
山城 晴夫



中央聖書学校の将来の展望

ります。これに関しては、私たちは、「より多くの伝道者」は否定されるべきものではなく、むしろ「より多くの伝道者、そしてより良い牧師」の養成をめざすものであります。第三はカリキュラムに関する指摘であり、答申ではとくに聖書の各論の学びより基礎学の充実を計るべきこと、伝道学、さらに教会形成学をも取り入れるべきことを求めています。

第四には社会情勢の変化にともない、拡大教育、夜間、分校の問題が挙げられています。

拡大教育、およびカリキュラムについては現在、学校理事会、教授会で優先課題として取上げ、検討中であります。

次に図書室の充実を考えています。現在の書籍数は和、洋書を合わせて四五二冊あり、仁司師の蔵書を含めても六、〇〇〇冊になりません、少くとも一〇、〇〇〇冊を当初の目標とし、環境も整備して利用しやすい図書室にしたいと願っています。

さらに献身者の増加が急務であると考えておりますが、現在まで、一四期生の二四名を筆頭に、七期生の二一名、さらに三期生、一〇期生、一九期生の夫々一七名が続いていますが、二六期生の入学時より目立って減少しています。最近、献身者の減少についてアンケートをとったところ、その理由として経済的なもの、魂への重荷と危機感の不足、個教会における献身に対する指導と教育の不足、神学校、神学生についてのイメージ・ダウンなどが挙げられました。私たちは何としても多くの献身者が送られるように祈って止まないところであります。ここで中央聖書学校に求められている四つのMについて考えてみましょう。

一、Message 神によってゆだね

られた使信を正しく学ぶことです。伝えるためには正しく学ばなければなりません。しかもこのために命をかけて学ぶのです。使徒パウロが「福音宣教のためにはいのちを惜しまない」と言っているように、力を尽して学ぶのです。しかも神のことは正しく伝えるために、神から聞く者とならなければなりません。それらを曲げて受取った人間的な思いをつけ加えたりしてはなりません。

二、Messenger 神の使者として十分に訓練されることです。モーセがイスラエルの解放者として、指導者として立てられるまでには八〇年の準備の期間がありました。学校における三年間、または四年間はすべての点においてとくに祈りに関して訓練され、備えられる期間であります。神に用いられる伝道者となるためにはまず、神の御手の中に臨る者でなければならぬはずで、霊的実践的訓練こそ、知的訓練とともに中央聖書学校に求められるべきものであります。

三、Method 私たちにゆだねられている福音をいかにして効果的に人々に届かせるかが問われるところであり、そのためには偏った学び、固定し



た学びではなく、すべての面において広く学ぶ必要があります。

パウロがユダヤ人にはユダヤ人のように、ギリシヤ人にはギリシヤ人のようになったように、福音をすべての人に伝えるために、最も有効な福音宣教の在り方を学ばなければなりません。

四、Manifestation 聖霊の賜物の

豊かな現われを求めなければなりません。私たちはペンテコステの群れであり、ペンテコステの神学校であります。真のペンテコステ信仰に立つものである。したがって、つねに聖霊の賜物の現われを見なければなりませんし、集会における賜物の現われに対する適切な指導を学ばなければなりません。聖霊の火が心に燃え続けられるように祈るとともにへり下って神の御声を聞き、神のみ心を求めて参りましょう。そして教師も学生も一緒に参り、より良い神学校をつくり、全国より多くの献身者が送られてくるように共に祈ろうではありませんか。



一九八四年度学校創立記念講演要旨

中央聖書学校の

めざすところ

山城 晴夫

このテーマについて話すに当り、中央聖書学校の過去をふり返り、現状を認識した上で、将来を展望してみたいと思います。

中央聖書学校の今日まで

一九世紀から二〇世紀の初頭にかけの復興復興により、アメリカ各地に生まれたものにバイブル・トレーニング・スクールがあります。それらは当初は信徒の働き人の養成を目的とした一、二年の短期のものでありましたが、のちに伝道者養成のためのバイブル・スクールとなり、修業年限も三年となりました。その後、さらに四年制のバイブル・カレッジとなって今日に至っているものであります。中央聖書学校も多くの面で、アメリカのバイブル・スクールならびにバイブル・カレッジにその原型を見るものであります。

日本においては一九二九年、神召教会内に始められた聖霊神学院が、戦後

の一九五〇年に現在の中央聖書学校として新しいスタートを切り、今日に至っていることは御存知のところであり、ます。そして今までに三八六名の卒業生を出しています。現在、教団教職者二五一名の中、九一パーセントが中央聖書学校の卒業生であります。このことから中央聖書学校の果たしてきた役割は大きなものであり、まさに評価されるべきものであることがわかります。現在伝道に奉仕している卒業生は卒業生全体の七六パーセントに及んでおり、昨年クリスマスチャン新聞社による全国の神学校調査に基づく七二パーセントを上回るものとなっております。

中央聖書学校の現状

学校の制度から言えば、一九五〇年に最初の規則が制定され、次いで一九七一年の総会において改正されてのち、さらに一九七六年に至って現行の制度に大きく変えられて来ました。現行制



度の特徴はまず教団の総意が反映できる組織とする。広く教団内から財源が得られる組織とする。教師会の自主制を重んじる。修業年限を四年とするというものであります。

これらの制度の変遷にともなう、カリキュラムも変わってきました。最初のものは一九六一年、一九六五年と多少の修正はあったものの、それらはアメリカの三年制バイブル・スクールのものを参考にしたもので、聖書科目七三単位、神学科目三八単位、実践二六単位、その他七単位の一四四単位を三年間で学ぶものでした。

その後一九七三年にはアメリカのパイブル・カレッジのカリキュラムを参考とした一般教養三四単位、宗教教育科目一九単位、聖書科目二六単位、神学科目一二単位、実践神学科目一〇単位、歴史神学六単位、外国語一六単位、その他九単位の一三三単位を三年間に学ぶものに移行され、さらに一九七七年には現行の一般教養三四単位、聖書神学二二単位、組織神学一六単位、歴史神学一二単位、実践神学二六単位、神学語学一二単位の一三二単位を四年間で学ぶ現行のものとなっております。

最近、教団で組織された学校制度審議委員会の答申の中に見られるいくつかの中央聖書学校に求められている点をあげてみたいと思います。その第一は学校の理念についてでありまして一九五〇年の規則、一九七一年の規則の中に見られる本校の目的が「キリスト教教育」を施すことであるのに対して、現行規則は「神学教育」を施すこととなっている点を指摘し、この点を重視していることでもあります。

この点に関する教授会は「この変化は方向性の変化ではなく、質の向上である」との見解をとっていることを申し添えておきます。第二に同委員会の学校に求める伝道者像についてであり、それは「より多くの伝道者」ではなく、「より良い牧師」とあるという点であ